

半導体漫遊記

(273)

湯之上隆

前回の本コラムで、世界の半導体メーカーたちが、ハーメルの笛吹きに踊らされているネズミのように見えると論じた。何しろ、世界10社の半導体メーカーが今年2021年だけで12兆円の設備投資を行い、22年にかけて世界で合計24棟の半導体工場を建設するのである。

9億ドル、アナログ半導体が167億ドルと過去最高を記録しているからだ。唯一、DRAMとNANDを含むメモリは

から18年Q3にかけて途轍もない成長を遂げ、「スーパーサイクル」という流行語も生まれた。このスーパーサイクルの正体は、メモリ価格の高騰にあった。DRAMもNANDも出荷個数はそれほど増えていないのに、価格が2〜4倍に高騰したのである。

価格は異なる。DRAMもNANDもスーパーサイクルの時のほどの価格高騰は起きていない。その代わり、出荷個数が増大している。まずDRAMの出荷個数は、スーパーサイクルの間は概ね40億個で横ばいだった。それが19年Q1に約35億個に落ち込んだ後、急激

はり過去最高の約33億個を記録した。このように、過去のスーパーサイクルでは

メモリ価格が高騰し、コロナ禍でメモリの出荷個数が急増するのかが、現在のコロナ禍では出荷個数が増大している？ それは、コロナによってリモートワーク

やネットショッピングが普及し、PC、スマホ、家電品が売れるとともに、人類が生み出すデータ量が急拡大したため、クラウドメーカーがデータセンタ投資を拡大しているからである。つまり、DRAMもNANDも、本当に足りないうちもついているのだ。

しかし、メモリの増産の先に待ち受けているのは、メモリ価格の大暴落に他ならない。つまり、メモリメーカーもハーメルの笛吹きに踊らされて、断崖絶壁に向かって一斉に走っているのである。筆者が恐怖感を持っていると書いた意味がお分かりだろうか？

メモリがロジック抜いて最大市場に

DRAM、NANDも最高出荷数

この24棟で半導体の量産が開始されるのは、早くとも22年後半以降になると思われる。ところが、もう既に半導体の大増産が始まっている。というの

は、四半期毎の種類別半導体の出荷額の推移を見ると、21年第2四半期(Q2)にロジック半導体が340億

ドル、アナログ半導体が18億ドル、メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

この24棟で半導体の量産が開始されるのは、早くとも22年後半以降になると思われ。ところが、もう既に半導体の大増産が始まっている。というの

は、四半期毎の種類別半導体の出荷額の推移を見ると、21年第2四半期(Q2)にロジック半導体が340億

ドル、アナログ半導体が18億ドル、メモリ市場は、16年

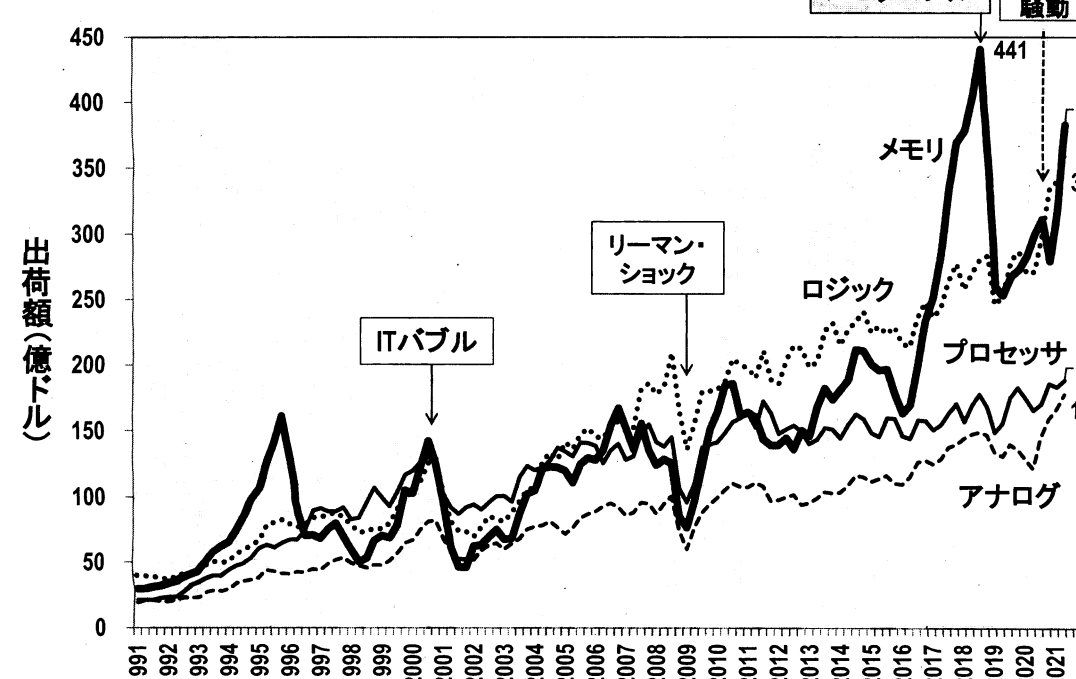
メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年

メモリ市場は、16年



四半期毎の種類別の半導体出荷額(～2021年Q2)

出所: WSTSのデータを基に筆者作成

その先には、メモリ価格の大暴落とメモリ不況が待ち受けているとしか思えないのである。(微細加工研究所 所長)